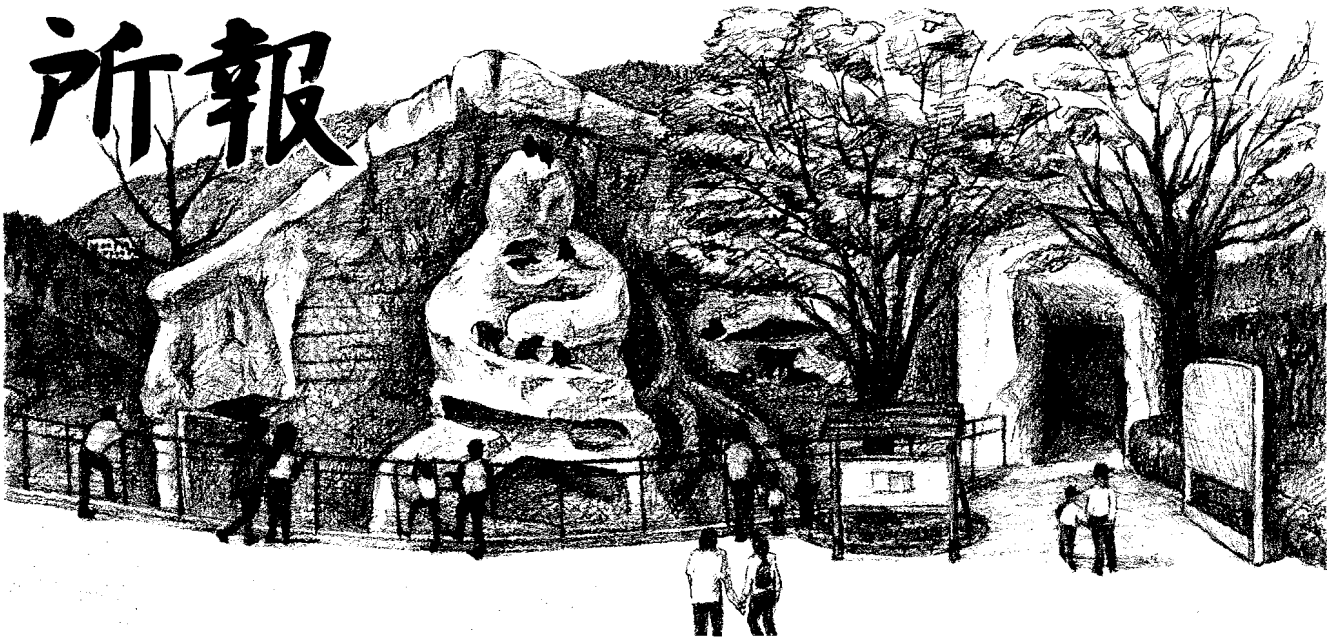
広島市教育センター

No. 68

所報



平成13年10月

ツーリストからトラベラーへ　ー二つの総合的学習ー

佐賀大学文化教育学部教授　**新　富　康　央**

新学習指導要領の指針を私なりに一言で総括すれば，「ツーリストからトラベラーへ」ということになる。

新学習指導要領のキーワードの一つが，「体験活動」である。特別活動だけでなく，各教科，道徳のすべてにおいて，体験活動が重視された。「厳選」により，教育内容は3割カットされた。しかし，それは，子どもたちが思考力や判断力，また表現力等を駆使して，学習の主体者として授業に取り組むようにするためである。

それは，指示されたままに行動する，従来のツーリスト（団体旅行客）づくりから，自らの意思をもって主体的に行動するトラベラー（旅人）づくりへの，パラダイム転換である。総合的な学習の時間はその典型である。

トラベラーは，自らの「思いや願い」をもって主体的に行動する。また，トラベラーは，総合的学習の究極のねらいである「自己の生き方を考える」ことができる。このように，「体験活動」と言っても，ツーリスト型とトラベラー型とでは，その質を異にするのである。

だが今日，総合的学習には二つの混乱が起きている。混乱の一つは，「調べ学習」型の総合的学習である。これは，「世界の人々の暮らし」等について，辞典や図鑑から「まとめて，発表」する学習形態である。やはり，総合的学習は本来，子どもたちが試行錯誤しながら問題解決に向けて調べる「調べ活動」でなければならない。

もう一つの混乱は，子どもの興味・関心を重視するあまり，お楽しみ会的になった総合的学習である。これは，児童の自主性を第一とする「総合学習」という大正新教育以来の実践に由来する。系統性や価値ある体験に結びつけることに弱い。教材を主体化し，価値ある体験へと結実させるための，一定の「柵づくり」が課題とされる。

総合的学習の独自なねらいである「自己の生き方を考えることができるようにする」とは，これまでの自己を超えることであり，教師の側から言えば，その子どもの日常性を打破し，既存の自己の殻を破ってやることでもある。したがって，総合的学習が追究する子ども像は，変革の意思ある主体として「他」に働きかける子どもである。

その点で，問題解決的な取り組みの見えない「調べ学習」型の総合的学習では，今までの自己の世界を超えることは困難である。同様にまた，興味・関心の世界にとどまり，今の自分を超えない「総合学習」型の総合的学習も，総合的学習が成立しているとは言えない。自分さがしに迫り得ないという点でともに，トラベラーづくりとは言えない。

「総合的学習が成立する時とは」。総合的学習の成立条件を点検すべき時機が，今日来ていると言えよう。

（筆者は，学習指導要領改善検討協力者）

もくじ

○巻頭言 ……P．1
○研究の紹介 ……P．2
○昨年度の実践校・園の取り組みの概要，研究発表大会のお礼……P．3，P．4
○教育関係資料の紹介・教育用語解説…P．5
○教育実践のアイディア……P．6
○「総合的な学習の時間」（高等学校）…P．7
○教育センターひろば……P．8

学習指導

総合的な学習の時間における「知」の見取りに関する研究

ー子どもの活動の観察と聞き取り等を通してー

前教育センター主任指導主事　木村　正信
（現上温品小学校教頭）
教育センター主任指導主事 森下　幸子・前田　憲壮

「総合的な学習の時間」では，「知の総合化の視点を重視（小学校学習指導要領解説総則編）」すると言われています。しかし，実際に子どもたちがいつ，どんな「知」をなぜ，どのように獲得しているのかを見取るのは大変難しいことです。そこで，この研究では，子どもたちの活動の観察やインタビューからそれらを探ってみました。

1　「知」とは何か

知とは何かについては様々な説がありますが，この研究では，学習経験や生活経験で得た知識に基づいて，ある状況の中で必要とされ，生み出される自分なりの考え方を「知」ととらえることができました。

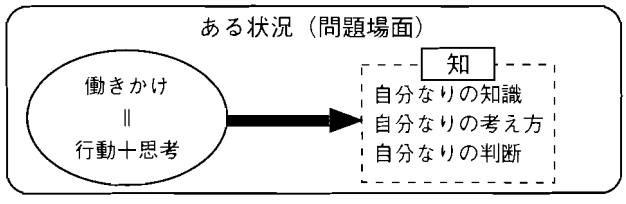
つまり,「知」とは，状況に応じて臨機応変に生み出される知恵のようなものと言えます。それ故，状況が変わればそれにつれて,「知」も変化していきます。

2　いつ「知」を獲得しているか

「総合的な学習の時間」では，追究したいテーマが見つからない，必要な情報が見つからない，集まった情報をどうまとめたらいいか分からない，などの大小様々な困った問題が出てきます。子どもたちの多くは，実は，このような困った場面（問題場面）で，「知」を獲得していることが観察できました。

3　どのように「知」を獲得しているか

問題場面に直面すると，まず，「困った」「どうしよう」「いやだ」「なんとかしなければ」というような心の動揺を感じます。その動揺を治めるために，子どもたちはどのような方法や手段でその問題を解決すべきか考えます。そして，その時点でのその子なりにもっている知識や考え方，判断をもとに問題解決へ向けて何らかの働きかけ(思考を伴った行動)をします。その結果，うまく問題を解決できることもあるし，失敗に終わることもあります。しかし，このような働きかけを通して，子どもたちはこれまでとは別の自分なりの考え方や判断の仕方などを身に付けていきます。



このようにして問題場面で，獲得した自分なりの知識，判断の仕方や考え方が，新たな「知」となります。

新たに生まれた「知」の多くは，これまでその子どもが生活経験や学習経験から得ていた知識や「知」のいくつかを関係付けたり，再構築したりして創られています。つまり，子どもが自ら「知」を総合化して，さらに新たな「知」を創出していくのです。

問題場面では，その子どもがこれまでにもっていた「知」では，問題をうまく解決することができず，新たな「知」を創り出さざるを得ない状況に立たされるため，「知」を総合化するのです。

4　なぜ問題場面で「知」を獲得するか

問題が起きれば，自動的に「知」が獲得されるわけではありません。「知」を獲得している子どもには次のような特徴が見られます。

① 追究しようとしている対象と自分との強い結びつきがある
（おもしろい，好きだ，興味がある，日頃から疑問に思っていたなど）
② 問題が自分にとって切実な問題である
（この問題を解決しないと困る，いやだ，前に進めないなど自分にふりかかってくる問題）
③ 他者とのかかわりがある
（先生や友達の言葉に示唆を受けるなど）

「知」を獲得するには，①，②，③のような条件のいくつかが必要です。

5　「総合的な学習の時間」で「知」をどう見取るか

(1)　何を見取るか

4で分かったことから考えると，まず，①子どもがその子なりの新たな「知」を獲得しているかどうかを見取ることが大切です。そのためには，②その子どもと追究の対象とのつながりは何かを見取っておく必要があります。そのことによって，③問題場面でその子どもが何を考えているかを見取り，新たな「知」を創出しようとしているかどうかを見取ることができます。

(2)　どういう方法で見取るか

次の3つの方法を組み合わせて子どもの個性に応じた内面の読み取りをする必要があります。

① 子どもの活動の観察
（つぶやき，会話等から思いや思考を読み取る）
② ポートフォリオによる読み取り
（時系列に並べて，変化やずれから思考を読み取る）
③ インタビューによる子どもの内面の聞き取り

※　詳細は，教育センター研究紀要第21号をご覧ください。

平成12年度学校教育実践校・幼稚園教育実践園の研究の概要

戸坂城山小学校　ーテーマ：「地域」「福祉」ー

戸坂城山小学校では，昨年度，これまで取り組んできた福祉体験学習や地域との交流学習などを基盤にして，「地域」「福祉」をテーマとした「総合的な学習の時間」づくりに取り組みました。

各学年では，それぞれ子どもの願いを生かし，子どもの課題を大切にすることを共通のねらいとして，次のような単元をつくり，実践しました。

○　低学年では，生活科を「総合的な学習の時間」の基点としてとらえ，「おしごと大さくせん」（1年生）「おいもパーティー」（2年生）など，子どもの意識の連続性が生まれる体験や活動を試みる年間計画を立て実践しました。

○　中学年では，3年生は「地域」，4年生は「福祉」にそれぞれ視点を当て，「町はかせになろう」（3年生），「お年よりとふれ合おう」（4年生）の単元をつくり，自分から進んで調べたり，交流したりする活動を中心として実践しました。

○　高学年では，「地域」に視点を当て，「バケツ稲づくり」（5年生），「戸坂の歴史」（6年生）の単元をつくり，自分たちで調べたいことを計画し体験活動することを通して，子どもたちの力で計画・運営する行事や交流学習へと発展していく実践をしました。

これらの実践を通して，子どもにとって課題が自分自身の課題となる段階は，実に個性的であることが分かりました。「ふれる」「つかむ」段階だけでなく，「調べる」段階で徐々に課題となったり，「まとめる・つなぐ」段階で初めて課題を見出す子どもがいるということです。今後も，本当の意味で「子どもの課題を大切にした」実践を目指していきたいと思っています。

矢野小学校　ーテーマ：地域「やの」ー

「一人一人を大切にし生き生きと学ぶ子どもの育成」を目指して，「総合的な学習の時間」に地域「やの」をテーマにし，「人・自然・文化」と出会い，課題づくりや追究することができる矢野プランづくりに取り組みました。

校内研修会を通して，「総合的な学習の時間」の理論研究や推進計画・方法について検討し，各学年それぞれが，ねがう子どもの姿を明らかにしました。

3年生では「お店はかせになろう」計画（全20時間），4年生では「ズームイン・やの！！」～おらがまち矢野を調べよう（町発見）～（全35時間），5年生では「焼き物から広がる世界」（全22時間），6年生では「矢野発　21世紀」～矢野を再発見し，よりよい地域に，より楽しい地域に～（全30時間）の単元をそれぞれつくり，学習したことについて受信や発信を繰り返す過程において，子どもたちが豊かな体験をし，課題解決の学び方を習得できる学習活動づくりを中心に実践しました。

それぞれの実践で次のような成果が得られました。

○　自分の暮らす矢野の町での体験活動を位置付けた結果，その子なりの課題発見，課題追究を行うことができた。

○　「やのっこアドバイザー」や「地域学習安全サポーター」等の人的学習環境の整備ができた。

○　児童用ワークシートや学習の手引きを工夫し活用した結果，子どもの情報を整理し活用する力を伸長することができた。

○　子どもにふるさとを思う心が育まれ，対話のマナーやコミュニケーション能力が培われてきた。

五日市中央小学校　ーテーマ：「地域や地域の人々」ー

地域や地域の人々についての学習を通して，地域のよさを知り，自分の生活を見つめることができることを目指し，実践を行いました。

まず，児童の実態等から，「豊かなコミュニケーション能力」「自分で考え自分で行動する力」「さまざまな地域の人を思いやる心」といった，児童につけたい力を各学年ごとに設定し，その達成を目指して，学年の目標やテーマを具体化していきました。

また，地域のボランティアによる授業参加を積極的に進めるため，ボランティア人材バンクを設置しました。さらに，活動での調べ方，まとめ方の力を高めるために，コンピュータの操作技能を高める時間を設定しました。

実践に当たっては，「いきいきタイム」の名称で，時間割に位置付け，年間35時間程度実施しました。具体的には，住みよい町づくりを考える「五日市中央おすすめマップをつくろう」，ケナフの栽培や収穫したケナフを使った「身近な環境問題について考えよう」，地域の高齢者へのインタビュー活動を通した「地域のお年寄りとふれ合おう」など，ボランティアも参加しての活動を展開しました。

このように地域も含めた学習を展開した結果，児童の地域のさまざまな人々への働きかけが多く見られ，たくましく，また創造的に生きていることへの知恵など，多くのことを学ぶことができたようです。

しかしながら，児童の課題意識を，児童にとってより切実なものとするための教師による学習状況の見取りと支援の有り様が，課題として明らかになりました。

可部中学校　ーテーマ：「地域に学ぶ」ー

可部中学校では，「生徒自ら考え，目標に向かって主体的に行動できる力」を育むことを目指して，「地域に学ぶ」をテーマに，地域の人，自然，歴史，などの「ほんもの」と触れ合う体験を重視した総合的な学習に取り組みました。取り組みに当たっては新教育課程準備委員会を設け，研修会の企画・運営，準備計画の立案等を行い，各学年へ諮っていきました。

各学年の取り組みの内容は表のとおりです。

各学年ともに，この時間でつける力を明確にし，そうした力をつけるにふさわしい体験学習を仕組みました。その結果，次のような成果がありました。

○　生徒ー生き生きと主体的に活動し，自ら考える姿，学習の成果を交流し振り返る姿が見られた。

○　教職員ー組織づくりによって集中的な議論と柔軟な対応が可能になった。

学年	テーマ	つけたい力	内　　容
第1学年	我が町可部	・課題設定の力 ・課題解決の方法を見つける力 ・仲間との協力による課題解決力	・可部の町のフィールドワークから課題を見つける ・課題解決の方法を探し調査する ・調査をまとめる
第2学年	地域の職業人に学ぶ	・職場体験学習を通して自らの進路を考える力 ・課題設定，資料収集，連絡調整，まとめの学習過程を通して主体的に学習する力	グループA 職場体験から働くことの意味と職業への関心を深める グループB 職業に関する調べ学習をもとに職場体験学習をする
第3学年	自らの生き方を考える	・活動の目的，内容，準備計画を通して主体的に行動する態度 ・地域の人との交流を通して生き方を考える力	・小学生と交流する ・地域のお年寄りと交流する ・聴覚障害者の方々と交流する ・外国の方々と交流する

長束幼稚園　ーテーマ：「太田川」ー

長束幼稚園では「心豊かな幼児の育成―自然『太田川』を中心に―」をテーマに，昨年度，実践的な研究を行い，近くにある「太田川」との年間を通したかかわりにより，どのような心豊かな幼児が育つのかを明らかにしています。

心豊かな幼児の姿を，自分の回りの美しいもの優れたものに気付く(A)，喜びや感動を素直に表現する(B)，友達と感動を共有し合う(C)，困難なことに取り組む(D)，生命の大切さに気付く(E)，人に感謝の気持ちをもつ(F)，いたわりの気持ちをもつ(G)，人の役に立つ喜びを味わう(H)，と捉え，さらに，「太田川」の持つ良さや特徴を明らかにし，「太田川」の８つの空間として次のようにまとめました。

①気付きの空間　②学びの空間　③想像の空間　④創造の空間　⑤仲間づくりの空間　⑥体力づくりの空間　⑦探索の空間　⑧冒険の空間

「太田川」での年間活動計画に基づいた活動を，その都度ていねいに記録し，どのような心豊かな幼児の姿（Ａ～Ｈ）が「太田川」のどういった空間（①～⑧）で見られたかを整理していきました。

その結果，「太田川」に触れる体験を通して，(A)(B)(C)(G)という幼児の育ちが見られ，あわせて幼児の遊びの質や内容を豊かに変えることへの効果が大きかったことが分かりました。

「太田川」での自然体験活動が幼児の育ちをすべて保障するものではありません。日々の園生活の中で，どういった活動がどういう意味を持つのかを明らかにしながら，園内外での活動をバランス良く計画的に取り入れることが必要です。

平成13年度　第８回広島市教育センター教育研究発表大会

８月８日(水)，227名の先生方の参加を得て，平成13年度広島市教育センター教育研究発表大会を開催しました。

本大会では，「子どもの学びを育む教育の創造」というテーマのもと，25の分科会で研究発表が行われました。今回，昨年度スタートした学校教育実践校・幼稚園教育実践園による「総合的な学習の時間」の取り組み等についても発表していただきました。児童生徒一人一人が充実感を味わえる授業づくり，実践的コミュニケーション能力の育成，共感性を育む教師のかかわりなど，21世紀を生きる子どもの学びを育む教育研究の成果が発表されました。

後半の講演会では，厳しい修行を積み，山県郡千代田町に刀の鍛錬道場を開かれている刀工，三上高慶氏に「伝統の技を受け継ぐ」と題して，「伝統を受け継ぐとは，昔から変わらぬ形を継承することであるが，その中で自分らしさを演出するのも大切なことではないか。」「弟子には技を決して教えない。教えると自らが学ぼうとしなくなる。」など，ご自身の経験を通して熱く語っていただきました。また，講演後には，卓越された技で「火床（ほど）」という火おこしを実演していただきました。

昨年度，好評でした教材配布を本年度も企画しました。本年度は，当教育センターで繁殖させたスズムシを配布いたしました。多数の御参加をいただき，本当にありがとうございました。

教育関係資料の紹介

教育センターでは，各学校等における教育活動等を支援するため，教育関係資料を計画的に収集・整備しております。平成13年度に購入した教育図書とビデオ教材の一部を紹介します。

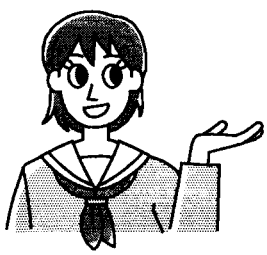
Books

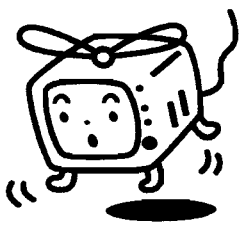
教科・領域	書　　名	編著者名	発行所名
学習指導法	総合学習のためのポートフォリオ評価	加藤幸次　安藤輝次	黎明書房
国語科教育	自分の言葉を作り出す国語教育	府川源一郎	東洋館出版社
社会科教育	総合的な学習の時間に生かす社会科	高野　尚好	国土社
算数・数学科教育	新・算数授業講座シリーズ（３巻）	新算数教育研究会	東洋館出版社
理科教育	理科好きの子どもをはぐくむ20の条件	松林　靖夫	東洋館出版社
音楽科教育	音楽科教育のための日本音楽による指導体系	花井　清	全音楽譜出版
図画工作・美術科教育	総合的学習でも大活躍　佐藤式“楽しい工作”メニュー10選	佐藤　昌彦	明治図書出版
家庭，技術・家庭科教育	図解　家庭科の実験・観察・実習指導集	日下部信行 他	開隆堂出版
体育・保健体育科教育	体育授業のジャンケンゲーム集	体育授業・実践の会	日本体育社
外国語科教育	ノリノリ英語ゲーム100	松崎　博	旺文社
道徳教育	心を育てる新しい道徳指導を創る－金子みすゞ－	押谷　由夫	明治図書出版
教育工学・視聴覚教育	インターネット教育イエローページ	渡辺幸重　太田順子	旬報社
生徒指導	非行少年への対応と援助	生島　浩	金剛出版
生活科教育	総合的な学習につなげる生活科１年２年	嶋野　道弘	小学館
幼児教育	幼児期の家庭教育	岸井　勇雄	ひかりのくに
障害児教育	こうすればうまくいくＡＤＨＤをもつ子の学校生活	リンダ・J・フィフナー	中央法規出版

この他にも教育雑誌43誌、各学校・幼稚園の実践教育研究物等も多数整備しております。ぜひ、ご活用ください。

Video Tapes

平和教育関係





『生きるための証言』
『はとよひろしまの空を』
『ヒロシマに一番電車が走った』
『核兵器のない地球を～この街　その海　あの大地～』
『なっちゃんの赤いてぶくろ』

教育用語解説　児童生徒の作品には「著作権」があるの？

昨年度，全ての小・中・高等学校及び養護学校へ，インターネットを利用できる環境が整備されました。学校の紹介や児童生徒の学習成果の発表などを目的としたWebページ（ホームページ）がいくつか公開されています。このような学校のWebページを作成する際，著作権や児童生徒の個人情報の取り扱い等については特に留意されていることと思いますが，果たして，児童生徒が書いた作文や絵画などの作品には，著作権があるのでしょうか？

実は，児童生徒の作品は著作物であり，それを作成した児童生徒が著作権を持つことになります。

著作物は「思想または感情を創作的に表現したものであって，文芸，学術，美術または音楽の範囲に属するもの」のことです。つまり，小説家や作家の作品だけでなく，先生方が日常書かれる日記や手紙，レポート等も著作物と言えます。したがって，児童生徒の作品をWebページにのせてインターネット上に公開する際には，事前に著作者である児童生徒と保護者に許諾を得る必要があります。

また，Webページへ地図などの著作物を載せる際にも，著作者である国土地理院や出版社などから事前の承諾を得る必要があります。

実践のアイディア　～実践してみませんか～

「科学的リテラシー」の育成を考えてみましょう
－新学習指導要領との関連を図って－　理科(高)
担当：松浦

「科学的リテラシー」は「科学的素養」とも言われている概念であり，高等学校におけるこれからの理科の学習指導を考察するうえで，重要となる概念の一つと考えられます。国立教育研究所（現国立教育政策研究所）が1994年に発表した調査研究では，科学的リテラシーを「社会生活を営む上での基本的な能力の一部で，科学的な読み書き能力に加え，科学的な事象に関して意見が言え，科学を理解し，身近な事象についての問題を科学的に解決し，意志決定ができるなど幅広く，調和のとれた科学的能力や科学観や科学的態度を有することである。」と定義しています。

日本が今後「科学技術創造立国」として国際社会で活躍していくためにも，広く国民の素養としての科学的リテラシーの育成は重要性を増すと考えられます。新学習指導要領では「理科基礎」「理科総合Ａ」「理科総合Ｂ」が必修選択科目とされました。これらの科目では科学的な事実，概念，原理，理論の学習とともに，科学的リテラシー育成の観点から科学に関する社会的な問題を積極的に取り扱うことが望まれます。

家庭との連携を図ってみましょう
－“家庭科だより”などを利用して－　家庭科(小)
担当：前田

家庭科では，衣食住や家族の生活などの学習を通して，「家庭生活への関心や理解」「日常生活に必要な基礎的技能と活用能力」「生活をよりよくしようとする態度」などの資質や能力の育成を目指しています。学校での学習に合わせて，実際の生活の中で活用したり，繰り返し学習したりすることでこれらの資質や能力を一層育成することができます。このためには，家庭との連携を積極的に図る必要があります。

例えば，“家庭科だより”や“学年だより”を通して，家庭科の学習のねらいや内容などに関する情報を提供することで，家族に家庭科の学習の意義や内容を理解してもらうことができます。また，家庭の協力を得て，長期休業中などに調理や家庭の仕事などの実践をすることもできます。さらに，家族をはじめ地域の方の協力を得て，生活に関する知恵や生活技術を学ぶ機会を設けることも考えられます。

なお，家庭生活が一人一人の家庭によって異なるため，児童を取り巻く家庭環境に十分配慮して学習を進めたり，情報を提供する必要があります。

和楽器を取り入れた題材開発を工夫してみましょう
－我が国の音楽の指導－　音楽科(中)
担当：井坂

来年度から実施される新学習指導要領では，器楽の指導において３年間で１種類以上の和楽器を用いることになっています。何か一つの題材で全員が和楽器の経験をすることも考えられますが，楽器の数等の関係で難しいことも考えられます。

そこで，次に紹介するような「表現」や「鑑賞」の題材に和楽器を取り入れた表現活動を取り入れる工夫をし，少しずつ経験を増やしていくようにしてみましょう。

- 我が国の民謡（そうらん節など）の歌唱表現をする際に，和太鼓・あたり鉦・篠笛等で伴奏を工夫する。
- 郷土の伝統音楽（神楽など）を取り上げ，地域の神楽団等を学校に招き鑑賞したり，「お囃子」の実演の指導をしてもらう。さらに，その経験を基にオリジナルな「お囃子」づくりの表現活動に発展させる。
- 箏曲「六段」などの鑑賞で，箏の音色の美しさや我が国の音楽のよさを味わった後，箏の基本的な奏法について理解し，簡単な曲を箏で演奏することに挑戦する。

「保育カンファレンス」を取り入れてみましょう
－具体的な場面を共有することから－　幼稚園教育
担当：名和原

幼児が降園した後，掃除をしたり明日の環境を整えたりしながら，他の先生方と一日の出来事を振り返って話されるでしょう。その中で，今日どうも元気がなかった幼児のその原因が分かったり，日頃の悩みの解決の糸口が見つかったりということがあると思います。これは，幼稚園の中で日頃行われている「保育カンファレンス」と言えます。「保育カンファレンス」を通して，担任が見落としていた幼児の姿や心の動き，行動の意味が明らかになったり，有効な支援の在り方について共通理解したりすることができます。

園内研修に，この「保育カンファレンス」を取り入れ，研修の充実を図りませんか。そのためにまず，具体的な場面を共有することから始めましょう。設定された保育観察の時間の中で，できるだけたくさん，活動の様子や読みとった幼児の思い等をメモしていきます。後で持ち寄りやすいように付箋等を利用すると良いでしょう。合わせてビデオ録画もしておきます。これらの具体的な記録が幼児の実態をよりよく見取り，保育の充実につながる資料として有効に働くでしょう。

高等学校における「総合的な学習時間」の取り組みに向けて

所報第67号で紹介しましたように，新教育課程の完全実施へ向けて，多くの広島市立小・中学校が「総合的な学習の時間」を教育課程に位置付けています。

高等学校においては，新学習指導要領が平成15年度より学年進行により段階的に実施され，平成15年度の第１学年から「総合的な学習の時間」を教育課程に位置付け実施する必要があります。

このことを受けて，今年度教育センターでは，広島大学の角屋重樹教授を招いて「高等学校における総合的な学習の時間」をテーマに高等学校教育課題講座を実施しました。

次にその講義の概要を紹介します。

****

1 「総合的な学習の時間」の創設の意味

一言で言えば，教科学習の見直しをして，子どもを育てて欲しいということ

教科の授業で知識を獲得する喜びを感じさせる授業を通して子どもを育てていれば，自動的に自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決することができるようになる。また，自分の生き方を考えることができるようになる。

今，豊かな人間性が求められているが，人間性は，「かかわり」を通して育てられるものである。しかし，今の子どもは他者が介在する中で勉強していない。他者とのかかわりをもたせてやることで，人間性が育つのである。

2 授業の見直し（授業改善）の視点

① 知識を獲得していくことに喜びを感じるような授業づくり

② 人とかかわり合いながら，知識を獲得していけるような授業づくり

昔は，授業は，どれだけ教えて，なんぼであったが，今は，どんな能力を付けてなんぼの時代である。

これまで，できあがった知識の獲得（knowing that）が授業の成果とされていたが，これからは，それだけでなく，知識の創り方の獲得（knowing how），人から学ぶ（knowing with）ことを大切にした授業づくりが求められる。

特に，knowing with は，歌舞伎，茶道，落語などの世界で，「芸を盗む」と言われるように，「人から学ぶ」ことが学びの原点ということであり，これが今の子どもの学びに欠けている。

そこで，たとえばある分野の名人を呼んで，直接その人の芸や技などを見，話を聞き，その名人から様々なことを学ぶ機会をつくっていく。その中で，子どもは「人から学ぶ」ことを体験し，同級生や先生という人の姿から学ぶことができるようになる。つまり子どもが状況の中で育つという学校に「学び(学び合い)」の文化が創られていくのである。

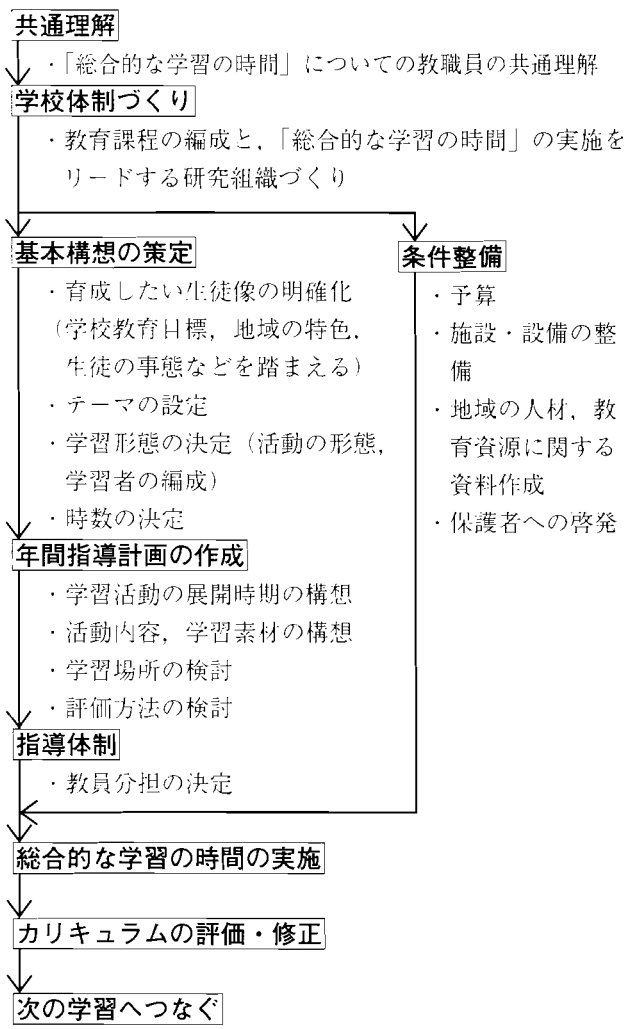
以上のような教科学習の見直しをどれだけ図っていくかが，「総合的な学習の時間」をその趣旨，ねらいに沿ったものにするための鍵を握っているといってよいだろう。

3 まとめ

現在，小・中学校では，移行期間にあり，その中で，上で述べた視点での授業改善が進んでいる。そして，それらの授業改善の上に立った「総合的な学習の時間」への取り組みが進んでいる。このような教育を受けた子どもが今後，高等学校に入学してくる。高等学校での本腰を入れた取り組みが必要である。

****

「総合的な学習の時間」をつくる際，次のような手順が考えられます。



［参考文献］ 広島市教育センター『「総合的な学習の時間」ハンドブック』平成12年３月

教育センターひろば

研究の協力をお願いしている学校

教育センターの指導主事が教育研究を進めるに当たり，次の学校にデータの収集や先進的な授業実践等で研究の協力をお願いしています。

研究領域	担当者	学校名
生徒指導	砂原文男 名和原恵理 山領勲	吉島小学校 段原小学校 長束小学校 亀山南小学校
学校経営	吉竹邦昭 永岡敏彦	宇品東小学校 河内小学校 己斐中学校 安佐南中学校
学習指導	松浦俊雄 井坂雅浩 堂道和雄	矢野小学校 城山北中学校
教育課題	住吉磨 水ノ上俊一	似島小学校 可部南小学校 中広中学校 長束中学校

教員長期研修生

（平成13年10月～平成14年３月）

今年度後期は次の８名の先生方が，それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

校種	研究部門	名前	所属校
小学校	社会科教育	三好崇之	古田台小学校
	生活科教育	石田浩子	草津小学校
	家庭科教育	藤田美和子	千田小学校
中学校	理科教育	桂木浩文	落合中学校
	総合的な学習の時間	下森英	矢野中学校
	教育相談	千葉優美	国泰寺中学校
	情報教育	和泉秀夫	己斐上中学校
幼稚園	幼稚園教育	井筒敦子	船越幼稚園

広島市立学校教育研究生

（平成13年７月～12月）

今年度は次の７名の先生方が，それぞれの部門で大学の指導教官や指導主事の支援を受けながら研究を進めておられます。

校種	研究部門	名前	所属校
小学校	国語科教育	丸岡正彦	可部南小学校
	障害児教育	戸田美鈴	五日市観音西小学校
	保健管理	大田美和子	中筋小学校
中学校	数学科教育	林宗男	亀山中学校
	道徳教育	岩渕満	日浦中学校
	生徒指導	三浦義之	古田中学校
	情報教育	上田光伸	白木中学校

広島市立学校教育実践校・幼稚園教育実践園

（平成13年５月～平成14年３月）

昨年度に引き続き，教育センターでは，総合的な学習の時間や幼稚園教育における研究を学校・園単位で支援しています。

校種	研究部門	学校・園名	研究推進代表者名
小学校	総合的な学習の時間	原南小学校	鋤山晋二 福原剛
		矢野西小学校	須賀卓也 藤河家由紀
		五日市中央小学校	高尾徹 山田都代美
中学校		牛田中学校	高橋哲男 鳴戸裕子
		矢野中学校	明見記令 下森英
幼稚園	幼稚園教育	大町幼稚園	大原照子

編集後記

新教育課程へ向けての研究や実践を計画的に進めておられると思います。教育センターも，皆様方のお役に立てるように支援していきます。

題字　広島市立矢野南小学校長　松永　一志
表紙絵　広島市立日浦中学校教頭　福原　正明

編集・発行／広島市教育センター
〒732-0068　広島市東区牛田新町一丁目17番１号
TEL(082)223-3563　FAX(082)223-3580
E-mail：center@hcec.ed.jp
広X6-2001-22